

によるハイブリッド開催となりましたが、海外演者を含む百四十三名の方にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。

今回の国際シンポジウムは、世界の老化・健康長寿研究者と国際的な共同研究ネットワークを構築することを目的の「こころびび」Jaffer A. Ajami 先生 (The University of Texas MD Anderson Cancer Center), Riqiang Yan 先生 (University of Connecticut School of Medicine), Klaus H. Kaestner 先生 (University of Pennsylvania Perelman School of Medicine), Shin-ichiro Imai 先生 (Washington University School of

Medicine) というご高名な研究者の先生方に最新の研究成果についてご講演いただきました。

シンポジウムでは、①がん研究、②神経科学研究、③代謝・循環研究、④老化研究をテーマとして取り上げました。いずれのセッションでも最先端の研究成果が報告され、聴衆との間で活発な質疑応答がなされました。本シンポジウムにより国際共同研究ネットワークが強化され、熊本大学大学院生命科学研究部における老化・健康長寿研究の活性化、老化・健康長寿研究に興味を持つ若手研究者の増加につながることを期待しています。

末筆になりましたが、本シンポジウムの開催にあたり、多大なるご支援を賜りました公益財団法人肥後医育振興会の皆様方に心よりお礼申し上げます。

第八十七回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部 秋季学術講演会 開催

熊本大学大学院生命科学研究部
呼吸器内科学講座 教授

坂上 拓郎

令和三年十月二十二日、二十三日に
第八十七回日本呼吸器学会・日本結核

非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部 秋季学術講演会を開催致しました。コロナ禍ではございましたが、第五波と六波の間で比較的感受状況が落ち着いている中、熊本城ホールを会場にハイブリッド形式での開催とする事ができました。蓋を開けてみると参加登録五百七十名、現地参加百二十名を超える先生方にご参加頂くことができ、盛会の内に終わることができた事を嬉しく思っております。

特別講演では新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野教授、菊地利明先生に「新規抗菌薬の使い方」としてラスクフロキサシン、吸入薬としてのリポソーマル化アミカシンをご解説いただき、千葉大学大学院医学研究部呼吸器内科学教授、鈴木拓児先生に「難治性呼吸器疾患病態解明への包括的アプローチ-マクロファージと肺サーファクタント」として肺胞マクロファージの系譜からみた呼吸器疾患の理解をご講演いただきました。

また島根大学医学部附属病院医学教育センター長 長尾大志先生には「私の呼吸器内科教育史」と題して卒前・卒後教育において大変参考となるお話いただきました。各講師の魅力に溢れるご講演により会を盛り上げて頂きました。シンポジウムでは新型コロナウイルス感染症で最前線に立つ呼吸器内科医へ最新の基礎、臨床の情報提供を行

いました。また医学教育、医局員勧誘を盛り込んだ特色ある構成で、参加者の好評を得る事ができました。最後になりますが、本学会への多大なるご支援を賜りました肥後医育振興会の皆様へ厚く御礼申し上げます。また開催にご尽力頂きました関係の皆様にも深く感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



第87回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部秋季学術講演会 (令和3年10月23日学会終了後)

